



～ 夢ひとすじに ～
宮原中だより
学び 磨き 鍛え 羽ばたけ

平成 29 年度 第 5 号
平成 29 年 9 月 1 日 (金) 発行
さいたま市立宮原中学校
メールアドレス
miyahara-j@saitama-city.ed.jp
ホームページアドレス
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

「自分が自分にならないで、誰が自分になる！」

こばやし ひろ とし
校長 小林 広利

「自分が自分にならないで、誰が自分になる」これは、相田みつおさんの言葉です。自分が自分らしく生きるとは一体どんなことなのでしょう。自分らしく生きるとは、自分を信じて心にゆとりをもち気持ちに正直に生きていくことだと思います。人はもともと自分をよりよく成長させようとする基本姿勢をもっています。よりよく生きようとする気持ちに正直に生きていくことができれば素晴らしいことだと思います。宮原中学校では、生徒が「夢と希望、自信と誇り」をもって生活できるようにしていくことを教育の原点としています。また、子どもたちがいつも笑顔で、自分に自信と誇りをもった生活ができるように指導・支援していくことは、教師や親の重要な役割の一つでもあります。

しかし、現実の生活では、むしろ自分の思い通りにはならないことのほうが多く、不安やストレスを感じてしまうことも多くあるでしょう。これは、社会生活を送っていく上で、むしろ当たり前のことであり、その不安やストレスを上手く扱いながら、子どもたちが健やかに成長するために、家庭・地域・学校の役割があると思います。

私は、家庭で「安らぎと安定」を、社会で「ゆとりと豊かさ」を、学校で「学びと充実」を子どもたちに味わわせることが必要と感じています。いわば、家庭に安らぎと安定のある暮らしの場があり、地域にゆとりと豊かさのある経験の場があり、学校に学びと充実感のある学習の場がある。そして、これらがバランスよくかかわりあうことが重要だと思うのです。

家庭は、何と言っても子どもたちの生活の基盤です。家族とともに過ごし、基本的な人格の基盤を形成する場でもあります。生まれ育つ中で、見る、聞く、話す、歩く、感じるなどといった力は、成長する過程の家族との絆の中で獲得される力であり、その成長をともに笑顔で喜んでくれる家族がいることが、その力を何倍にも膨らますことと思います。家庭で十分な愛情を注がれて「心の基盤」が出来上がり、自分らしさを発揮する基礎が培われていくのです。

地域は、家庭という小さな基盤を抜け出て、異年齢の友達や大人とのかかわりの中で多くの体験ができる場です。それは子どもたちにとっていわば遊びの時間としての生活であり、ゆとりをもって豊かな経験を積んでいける場でもあります。友達とけんかもするでしょう、小さな怪我をすることもあるでしょう。社会のルールに沿った注意を大人からされることもあるでしょう。その中で社会性を身に付け、多くの人たちとのコミュニケーションを通して他者への気配りも学んでいきます。子どもが大きく豊かに成長するための場が地域にはあると思います。

学校は、教科の学習や運動、行事や部活動など自分の長所を見つけ、学び伸ばす場です。ここでは、分からなかったことが分かるようになる、できなかったことができるようになるという進歩が大きく見られます。しかし、それにはそれ相応の努力と粘り強さが必要であり、競争や勝敗、評価など子どもたちがストレスと感じてしまうことも数多くありますが、一日の中で最も多くの時間を過ごすのは学校です。人間関係を学ぶ場としても重要です。人間関係プログラムの授業はその中心となっています。

宮原地区では、7月に「みやはらまつり」が開催され、宮原中学校の生徒たちが担ぐみこしが中山道を練り歩きました。まさに、地域に子どもたちが溶け込み、家庭や学校で培ってきた子どもたちの力が、地域の人たちによって開花・充実した瞬間です。このように、家庭・地域・学校がそれぞれの役割を担い、よりよい関係を保っていくことは、生徒一人ひとりが自信をもって「自分が自分らしく生きる」ための基盤づくりに重要です。



2学期も、本校生徒へのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。【みやはらまつりにて】